

保健体育科

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.24517/00055812 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



保健体育科

廣瀬 尋理

金子 真鈴

共同研究者 横山 剛士（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

本校の研究主題「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発—グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して—」を受けて、保健体育科として念頭に置きたいことは、伝統文化教育を通して教科の目標を達成することである。言い換えれば伝統文化を教えることが目的ではなく、伝統文化を扱い、生徒が伝統文化に触れることで、どのように教科の目標に迫れたかを大切にしていきたいと考えている。またそれだけではなく、研究の副題にもある、グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指し、研究を進めていきたいと考えている。

さて、学習指導要領の保健体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」とある。この目標に向けて体育分野と保健分野で相互に関連して指導することが重要である。特に体育分野では「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」こと、つまり生涯スポーツにつなげていくという大きな目標がある。その大きな目標に近づけるために、体育ではそれぞれの運動の特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうとともに、その中で、「主体的に取り組む」、「公正に取り組む」、「互いに協力する」、「自己の責任を果たす」などの態度を育てる必要があり、そのような態度は学校全体として育成する資質・能力にもつながる能力だと考えている。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

学校全体として育成する三つの資質・能力（①日本の伝統や文化に関する理解、②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度、③文化の伝承・創造への主体性など）について保健体育科としてどのように関連させていくかについて記述していく。

伝統文化教育を行うに当たって、体育で最初に思い浮かぶのが武道である。武道については武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、それを学ぶことが「①日本の伝統や文化に関する理解」につながる。また、単に試合の勝敗を目指すだけでなく、技能の習得などを通して相手を尊重する礼法を重んじたり、柔道でいえば受け身を取りやすいように投げたりと相手を思いやる態度など、相手を尊重し合うための独自の作法がある。このような考え方や伝統的な行動の仕方を学ぶことで、「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」にもつながると考えられる。また武道で学んだ礼法や相手を思いやる気持ちなどを、どのように生活に生かしていくかを考えさせることで「③文化の伝承・創造への主体性」などにつながる。

(2) 関連・連携を図った教科等について

体育の授業で技能を習得する場面において、どのように体を動かしたら効率のよい動きになるか

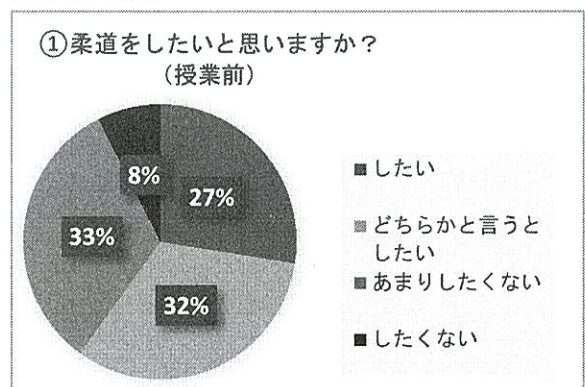
考えていく事が多い。その際、理科の「運動とエネルギー」にある「力の方向性」と関連が大きくなる。加える力の大きさが同じでも、力がはたらく場所（点）や力を加える向きによって、力のはたらきが異なり、物体の動き方は違ってくることを理解することで、特に陸上競技、器械運動、球技においてのクローズドスキルを学ぶ際には、つながりが強くなる。また、武道においては、柔道着の着方や帯の閉め方について技術・家庭科（家庭分野）と関連が強い。さらには、武道や華道、茶道のように日本の伝統的な型や作法を学ぶという点では様々な教科と連携が図れると考えられる。

3. 成果と課題

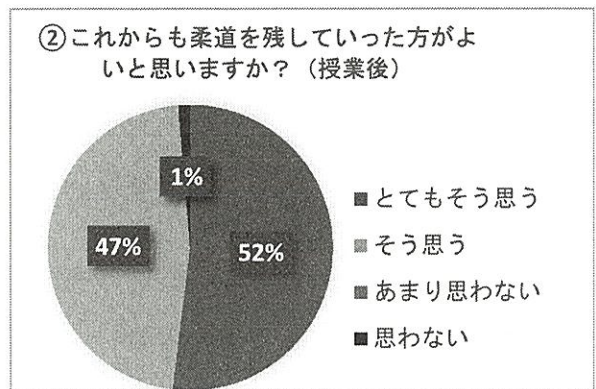
男子は1年生でダンスを行った。まず授業前のアンケートで「ダンスが好きですか」という質問に対して、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた生徒が58%であった。また、「日本の伝統的なダンス（民踊）を踊ってみたいですか」という質問に対しては、「どちらかという踊りたくない」「踊りたくない」と答えた生徒が68%であった。このようにダンスに対してネガティブなイメージを持っている一方、「日本の伝統的なダンス（民踊）をこれからも残していくべきだと思いますか？」という質問に対しては、「思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が81%であった。上記のような実態を踏まえ、ダンスの授業では、日本の民踊を、踊るだけでなく、これからも残していくためにはどうしたらいいのか（どうすれば「こきりこ節」を楽しく踊れるのか）ということを最終的に考えさせていこうと計画を立てた。そうすることで、最終的にダンスを楽しむという体育科の目標にもつながると考えたからである。また、その過程の中で、こきりこ節についての歴史や由来を学んだり、他国の民謡（ジェンカ、マイムマイム）との比較をすることで、自国の民謡の良さをより理解したり、他国の文化をより理解・尊重することにもつながり、それが学校全体として育成する資質・能力についてにもつながると考え、授業実践を行った。

授業後のアンケートでは「ダンスが好きですか」という質問に対して「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が80%であった。また「日本の伝統的なダンス（こきりこ節）を行うことで、日本の伝統や文化の良さについて理解することが出来ましたか？」という質問に対して、「出来た」「どちらかと言えば出来た」と答えた生徒が89%で、「他国の伝統的なダンス（ジェンカ、マイムマイム）を行うことで、多様な文化の違いや良さを理解することが出来ましたか？」という質問に対しても、「出来た」「どちらかと言えば出来た」と答えた生徒が92%であった。また感想を書く欄には「ダンスが楽しくなった」「他国の伝統的なダンスの違いやそれぞれのダンスの意味を学習できた」などの記述が多く、上記のアンケートより、授業のねらいを概ね達成できたことが示唆された。しかしながら、「ダンスは好きか」という質問に対して、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と20%の生徒が回答しており、そのような生徒は、感想で「難しかった」と書いている生徒が多いことを考えると、まだまだ改善の余地は大いにあると考えられる。

女子においては、1年生で柔道の授業を行った。授業開始前のアンケートでは、「柔道をしたと思いますか？」という質問に対し、「したくない・あまりしたくない」と答えた生徒は41%（グラフ①）で、その理由として挙げられたのは、柔道は「痛そう・難しそう・怖そう」というイメージが多かった。しかし、「柔道をこれからも残していった方がいいと思いますか？」という質問に対しては、「と



でもそう思う・そう思う」と答えた生徒が93%を占め、「日本の伝統的なスポーツだから」残した方がよいと考えている生徒がとても多く見られた。これらを踏まえ、精力善用や自他共栄を土台として、ペアやグループ活動で互いに協力し、柔道の楽しさを味わいながら資質・能力の育成を目指した。礼法については、授業を重ねるごとに、ペア活動の開始・終了時に教師が指示をしなくても互いに息を合わせ、礼をする姿が見られるようになっていった。



単元終了後のアンケートでも、「柔道をしてみて楽しかった・どちらかと言うと楽しかった」と答えた生徒が97%となり、その楽しさが意欲的に学ぶ姿勢をつくり、礼などに現れたのではないかと考える。また、開始前と同様に“これからも柔道を残していった方がよいと思いますか？”と質問したところ、「とてもそう思う・そう思う」と感じる生徒が99%となった（グラフ②）。その理由の中には、「礼儀などで日本人の心を学べるから」、「技だけではなく、相手をしてもらった人に礼をするなど、礼儀も身に付けることができるから」、「ただただ勝つという目標だけでなく、体と共に心も成長するものだから」など、柔道の精神を日本の良さにとらえ、残していった方がよいと考える記述が多数見られた。このことから、本研究の資質・能力①「日本の伝統や文化に関する理解」が高められたのではないかと考える。

また、“柔道を通して、生活でも活かせるかもと感じたものはありましたか？”という質問に対して、「（柔道の）技術は生活には生かせないけど、自他共栄の精神は活かすことができると思う」や「愛の手（立ち技での取りが支える手）で相手に痛い思いをさせないように、困っている人がいたら愛の手で助ける」、「礼儀を大切に→普段から「ありがとう」を大切にする」という記述が見られた。このことより、資質・能力③「文化の伝承・創造への主体性など」につなげていけるのではないかと考え、この学びをいかに様々な場面で発揮できるかが課題である。

本実践は、伝統文化としての民謡、柔道を学ぶことと「伝統文化で」学ぶことの交差において、特に後者を大切にされたものであり、また、それを他教科とのつながりを探りながら創り上げたものである。各実践ともに課題はあるものの、アンケートや感想を見る限り、生徒が伝統、文化、民謡、柔道等々について、身体を動かしながら仲間と試行錯誤しながら、学習した様子が見える。

今後、考えるべき論点としては、第一に、生徒は、伝統とは何かについてどれだけ思考したかを問うことである。生徒たちは、伝統の意味内容はともかく、前提として伝統文化は残しておくべきと、伝統にポジティブな意味を付与している。実際、事前アンケートでは、生徒たちの多くは「踊りたくない」「柔道をしたくない」のに、伝統的なダンス、スポーツは残しておくべきだと捉えている。本実践は、こきりこ節と柔道をいったん伝統（的）と捉えたけれど、そもそもそこで見ている伝統、伝統的が指し示す意味内容な何なのか、それに関する思考がありえるだろう。

第二に、教科等の横断やつながりとはいったい何なのかについて問うことである。上記2点について、今後の課題である。

最初は、ダンスが嫌だったけれど、班5の人のアイデアを組み合わせてダンスを作っていくうちに、だんだん楽しくなってきたので良かった。もっと別のステップなども学んで、自分のもっているダンスのスキルをもっともっと増やしていきたい。

民謡と他国の伝統的なダンスの違いやそれらのダンスの意味を学習できた。
現代版こきり節を創ることで、ダンスに工夫をしたり踊ったりすることができた。

最初はダンスがあまり好きではなかったけれど、ダンスを楽しくしているとだんだん好きになってきた。現代版を作りときに班5の人と協力してすることができたのが良かった。日本が世界のダンスについてたくさん知ることができた。

民謡にはゆったりとしていて見ているとあぐひがさるようなつまらないものばかりだと思っていたけれど、「こきり節」のようにとても面白いものがあることが分かり、他の民謡についても知りたいなと思いました。

はじめは、こきり節は短調なおどりがだからと、あまり気が進みませんでした。

でも、みんなとアレンジしていくうちに、ダンスのおもしろさに気がつきました！ みんなと息を合わせておどると、元気がでます。ダンスはたのしいです！

③これからも柔道を残していった方がよいと思いますか？

とてもそう思う ・ そう思う ・ あまり思わない ・ 思わない

理由

ただ「ただ勝つ」という目標だけでなく、「精か善用」や「自他共栄」などの教えがあるので、体と共に心も成長するものだから。

理由

技だけでなく、相手をしてもらって人に礼をするなど、礼きも身につけることができるから。

理由

柔道は、いろいろな礼き作法があって、日本のそういう文化がうすまっている中で、とても大切なことだと思うから。

④「柔道」を通して、『これは大切だ!!』、『生活でも活かせるかも!』と感じたものはありましたか？

ある ・ どちらかと言うとある ・ あまりない ・ ない

「ある・どちらかと言うとある」と答えた人、具体的にどんな場面で・何をか、を書いてください

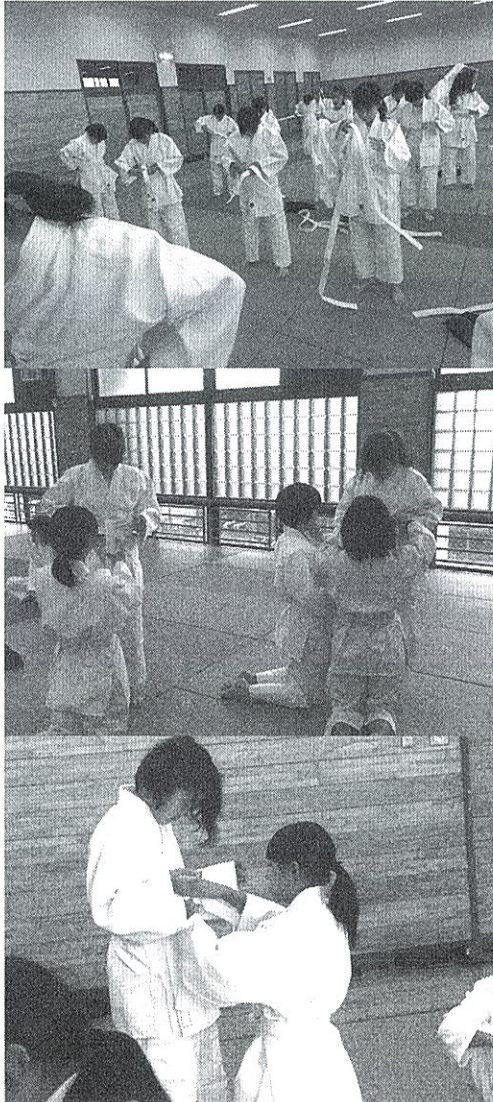
⑤「自他共栄」。技術は生活には生かせないけど、その精神は生かすことができると思う。



「ある・どちらかと言うとある」と答えた人、具体的にどんな場面で・何をか、を書いてください

⑤「愛の手」で相手に、いたい思いをさせないよう、困っている人がいたら愛の手で助ける。

実践事例

保健体育 1 年

| | | |
|---|-----------------|--|
| 授業者 金子 真鈴 | 授業日 11 月 2 日(金) | |
| 授業クラス | 1 年 1 ~ 4 組 | 関係・連携の考えられる教科等 家庭 |
| <p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道の歴史について理解する。 ・柔道衣を正しく着用する。 | | |
| <p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道の歴史や、「柔道の父」と呼ばれる嘉納治五郎を知り，正しく柔道衣を着用できるようになる。【知識・理解】 | | <p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に関する理解</p> |
| <p>授業のポイント・流れ</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ol style="list-style-type: none"> 柔道のイメージは？ <ul style="list-style-type: none"> ・柔道，見たことある？ ・柔道してみたい？ ・柔道のイメージは？ 柔道の歴史について知る <ul style="list-style-type: none"> ・1882年（明治15年） ・嘉納治五郎 ・精力善用 ・自他共栄 柔道衣を着る <ul style="list-style-type: none"> ・前襟の重ね方 ～右？左？どっちが上？～ ・帯の結び方 ・着方をマスターしよう (わからなくなったら教えてもらおう) 柔道衣を着て動く <ul style="list-style-type: none"> ・横転がり ・前まわり ・後ろまわり ・ほふく前進 ・手押し車 ・おんぶ ・両手で持ち上げる 柔道衣をたたむ <ul style="list-style-type: none"> ・きれいにたたんで，袋の中へ </div> </div> | | |

| | | | |
|--|--------|--|--|
| 授業者 廣瀬 尋理 | | 授業日 10月26日(金) | |
| 授業クラス | 1年1～4組 | 関係・連携の考えられる教科等 社会・音楽 | |
| 授業内容 ・ 様々な国の民謡（フォークダンス）をしよう ・ 民謡（フォークダンス）を自分流にアレンジしてみよう | | | |
| 教科等で身に付けたい力（本時について） それぞれの踊りの特徴を捉え、様々なステップや隊形を組み合わせている。 【思考・判断】 | | 育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度 | |
| 授業のポイント・流れ 2つのフォークダンスの歴史や意味を理解しながら、それぞれの良さやそのダンスが大切になっていることに気づき、それを意識しながら自分流にアレンジしていく。 1. ジェンカを知る（歴史や踊りの意味を知る） 2. ジェンカの様々な踊り方を知る（少しずつ変化していることを伝える） 3. 自分たちなら、ジェンカの踊りの何を残し、何を変化させていくか考え、創作する 4. マイムマイムを知る（歴史や踊りの意味を知る） 5. マイムマイムの様々な踊り知る 6. 自分たちなら、マイムマイムの踊りの何を残し、何を変化させていくか考え、創作する 7. それぞれの踊りの特徴や面白さなどについて感想を述べる | | | |
|  | |  | |
| マイムマイムを踊る様子 | | ジェンカを創作している様子 | |

実践事例

保健体育1年

| | | |
|--|------------------|---|
| 授業者 廣瀬 尋理 | 授業日 11 月 23 日(金) | |
| 授業クラス | 1年 3・4組 | 関係・連携の考えられる教科等 社会・音楽・家庭 |
| 授業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・進化させた「こきりこ節」を中間発表する。 ・各班の踊りや意見を参考に、より進化させる。 | | |
| 教科等で身に付けたい力（本時について） 踊りの由来を理解しながら何を残して、何を変化させていくかを考えることができる。 【思考・判断】 | | 育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など |
| 授業のポイント・流れ 1. 本時の課題を知る（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・前時に創った踊りを中間発表すること、それをより進化させる事を確認する。 2. 中間発表をする（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を見て、何を伝えよう（表現しよう）としているのかを見る。 3. 各班の意見を参考に考える（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・意見を参考にしながら、自分たちが考えた部分が伝わっているのかを確認する。 4. 自分たちの踊りをより進化させる（20分） <ul style="list-style-type: none"> ・踊っている自分たちや見ている人にも楽しさが伝わるように進化させていく。 ・自分たちが残したい（大切にしたい）部分を意識しつつ、楽しく踊れるように工夫する。 5. まとめ（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・各班にどんな工夫をしたか聞く。 | | |